

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	神奈川
-------	-----

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	神奈川県相模原市立富士見小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	4	4	3	0	23	31
児童数	141	135	154	157	156	113	0	856	

研究の概要

1. 研究主題

<p>子どもの学びを創る                  ~学び合い高め合う授業の創造 算数科の授業を通して~</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年・算数</p> <p>本校児童の実態で、算数の学力の個人差が大きいため</p>
---

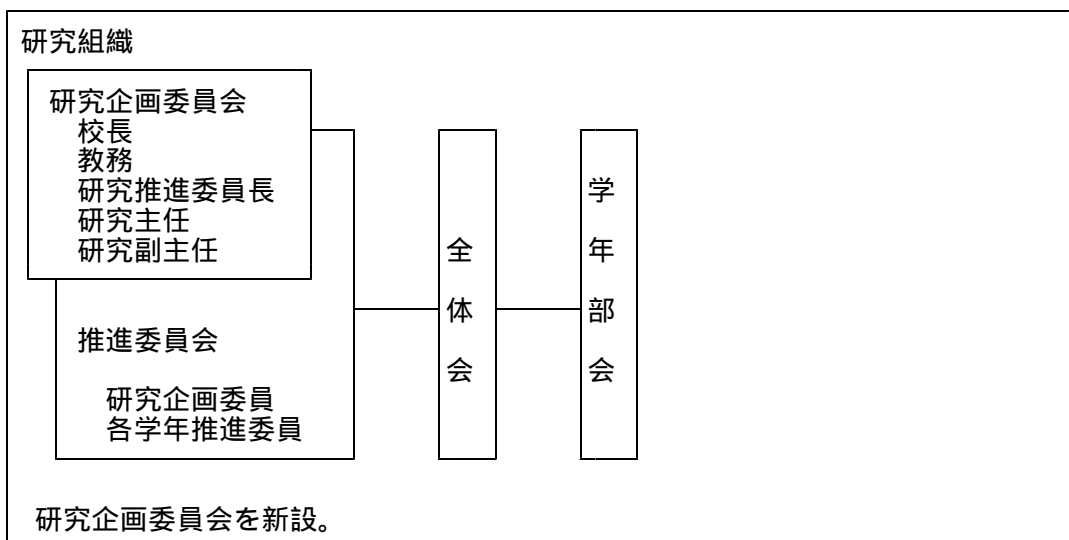
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ</p> <p>子どもの学びを創る                  ~確かな学力を身につけ、意欲的に学ぶ子どもを育てるための指導方法                  ・指導体制の工夫とは~</p> <p>仮説</p> <p>算数科において、習熟度別グループでの指導や少人数指導やT T指導等指導方法と、指導体制を工夫することで、個に応じたきめ細かい指導がしやすくなり、学習内容の理解度が増し、算数に対して意欲的な学びを構築することができるのではないだろうか。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数における習熟度別グループでの学習と少人数指導を実践し、授業研究を通して子どもの変容を検証する。</li> <li>・算数で身につけたい能力・資質について分析し、その共通理解を図る。</li> <li>・算数における絶対評価の方法を具体的にし、その共通理解を図る。</li> <li>・算数の授業における学び合いについて共通理解を図る。</li> <li>・児童の学力や学習意欲を調査し、実態を明らかにする。</li> </ul>
--------	--

平成 15 年度	<p>テーマ</p> <p>子どもの学びを創る ～学び合い高め合う授業の創造 算数科の授業を通して～</p> <p>仮説</p> <p>友だち同士のコミュニケーションを活発にし、学び合い高め合う授業を構築することで「納得できる学び」が生まれ、子どもたちが確かな学力を身につけることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな視点での学習グループ作りや、少人数指導を工夫して実施し、授業研究を通して検証する。</li> <li>・児童の学習内容の理解度と、意欲や考え方を効果的に評価するための方法を開発する。</li> <li>・総合的な学習との関連を図り、学力について分析する。</li> <li>・中間報告会を実施し、本校の提案をするとともに、多くの先生方の意見を聞き、研究を深める。</li> </ul>
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ</p> <p>子どもの学びを創る</p> <p>研究の見通し</p> <p>子どもの学習プロセスを重視し、評価の方法を追究する（仮）</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究のまとめとして、学力向上に関する「富士見小プラン」を作成し、研究発表会やホームページ等で発信する。</li> <li>・学力を測定する評価方法について</li> <li>・学習のプロセスを大切にした授業の創造</li> </ul>
----------------	---

### (3) 研究推進体制



## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

- ・ オープンスペースを活用したり、低脚の机を利用するなど、場を工夫することで算数的な活動の場に広がりが増え、豊かな活動につながった。
- ・ TTや少人数などの形態の工夫や教材の工夫によって、学習に意欲的に取り組む子が多くなった。
- ・ 多様な考えを出し合う授業を重ねることで、お互いの考えを認め合ったり、考えの良さに気づける子が多くなりつつある。
- ・ 振りかえりカードの活用によって、自分の学びの振りかえりができることから「学びの実感を得た」と認識した子がでてきた。

### 2. 今後の課題

- ・ TT、少人数など、複数でチームを組むため、共通確認や進度の調整などで詳細な話し合いが必要となったが、十分な時間が確保できなかった部分もあった。
- ・ 習熟度別学習形態や少人数指導において個々を見とり評価し、この積み重ねを評価につなげる上で、さらに研究を積み重ねる必要を感じている。
- ・ 子どもが「学び合い高め合う」授業をめざすとき、子ども同士のかかわり合いの質を高めていく工夫が必要である。真剣に関わり合う状況をいかにして仕組むか、教材・題材・課題設定のあり方と併せてさらに深めていくべき内容である。

### 学力等把握のための学校としての取組み

- ・ 学力テスト 5月（算数・前年度の理解度）  
3月上旬予定（算数・今年度の理解度）  
2年生から6年生まで抽出クラスで実施
- ・ 知能テスト 1年生実施  
3月上旬学力テスト（算数・今年度の理解度）

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

\*平成15年度 学力向上フロンティアスクール 中間報告会

日 時 平成15年11月27日（木） 1：30～4：50

場 所 相模原市立富士見小学校

目 的 ・1年半の研究の成果を問うことで、これまでの研究の再認識と新たな研究課題の明確化を図り、研究内容の深化をめざす。

報告形態 授業公開及び協議、パネルディスカッション

\*パネルディスカッションのパネラーとして、高相管内の学力向上フロンティアスクールである海老名市立柏ヶ谷小、相模原市立麻溝台中のフロンティアティーチャーに参加して頂いた。参観者からは、他校の実践や中学生の実態、分析や取組などが聞くことができ、良かった。小学校生活の大切さなどを再認識したという声があった。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無